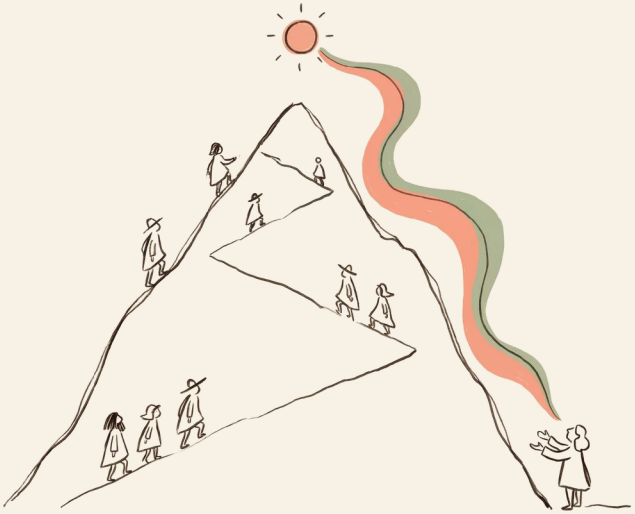
その道

なぜキリスト教なのか

上っていく宗教、降りて来られた神



絵と図で見比べる話

目次

なぜキリスト教なのか

その一　すべての宗教は同じことを言っているのでしょうか？　4

その二　人はどうやって神のもとへ行こうとするのでしょうか？　7

その三　ところが、逆さまの物語がひとつあります　10

その四　ただ赦してくだされればいいのでは？　13

その五　キリスト教は排他的なのでしょうか？　17

まとめ　ひとことで言えば　21

その先の物語　26

その一　教会はどのように始まったのでしょうか？　27

その二　教会は何をするのでしょうか？　29

その三　ひとりでしっかり信じていればいいのでは？　31

その四　本物はどう見分けるのでしょうか？　33

その五　どんな教会に行けばよいのでしょうか？　36

✎　分かち合いのための問い　39



自分は
善い人なのか？



わたしの罪は
どう洗われる？

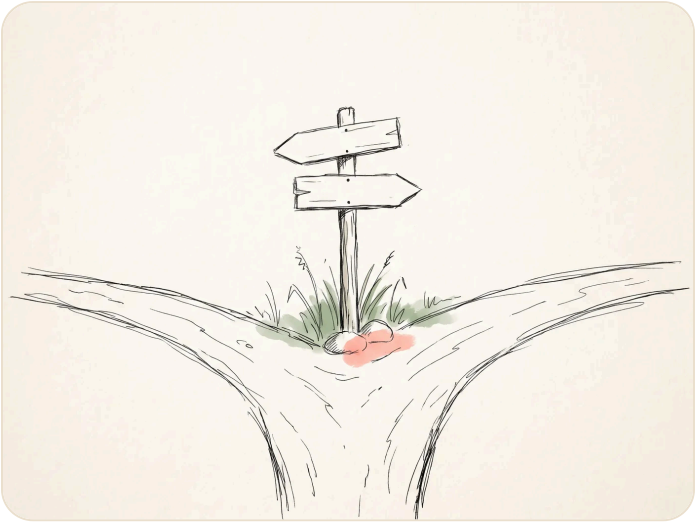


死の向こうには
何があるのか？

だれもが心に抱いて生きている問いです。宗教ごとの答えを同じものさしで、率直に比べてみます。論争に勝つための文章ではなく、先に出会った良い知らせを分かち合うための文章です。

その一

すべての宗教は同じことを言っているのでしょうか？



両方とも間違っていることはあっても、両方とも正しいことはありえません

キリスト教

イエスは十字架で死に、三日目によみがえった

≠

イスラム教

イエスは十字架で死ななかった（クルアーン 4:157）

神はどのような方か？

キリスト教 人格をもつ唯一の神（父・子・聖霊）

イスラム教 人格をもつ唯一の神。三位一体ではない

ヒンドゥー教 多くの神々と、その奥にある究極の実在ブラフマン

仏教 世界を造った創造主を立てない

イエスとはだれか？

キリスト教 人となられた神

イスラム教 偉大な預言者。神ではない

ユダヤ教 待ち望んだメシアではない

ヒンドゥー教 多くの師や化身のうちのひとり

死の後は？

キリスト教　一度死に、復活と審判

イスラム教　一度死に、復活と審判

ヒンドゥー教　業によって生まれ変わる（輪廻）

仏教　輪廻。涅槃に入れば終わる

「わたし」とは何か？

キリスト教　神が造られた、永遠に続く人格

ヒンドゥー教　真の自己（アートマン）はすなわちブラフマン

仏教　変わらない自己はない（無我）

イスラム教　神が造られた被造物。復活のときに再び生きる

いちばん大切な問いについて、宗教はそれぞれ違う答え、ときには正反対の答えを出します。ですから「すべての宗教は正しい」という言葉は寛容に見えても、実はすべての宗教に向かって**「あなたがいちばん大切にしているその言葉は間違っている」**と言っていることになります。互いを本当に尊重するなら、違うものを違うと率直に言うところから始めるべきです。

その二

人はどうやって神のもとへ行こうとするのでしょうか？

答えがもっとも大きく分かれるのは、ここです。



① 神と取引する



② 自分で登る

方法は違っても、向きは同じです — 上へ

けれども正直に問わずにいられません。どこまで上れば十分なのでしょう。昨日より良い今日を生きても、心の奥の恥は**自分の力では消えません。**

① 神と取引する。「これだけ祈り、断食し、ささげ、善く生きれば、神も報いてくださるだろう」。けれども、どれだけ載せれば足りるのか、天秤がどちらに傾くのかは、最後までわかりません。

② 自分で登る。苦行し、修めに修めて悟り、抜け出そうとする道です。結局は、人が高いところにたどり着こうとすることです。

← 人がする　　神がする →

仏教

問題	執着と無知から来る苦しみ、終わりのない輪廻
目標	涅槃。苦しみと輪廻が終わること
なすこと	八つの正しい道（八正道）、戒律、瞑想。ブッダは最後に「自らを灯火とせよ」と語りました

儒教

問題	徳が足りず、心が正しくないこと
目標	君子、聖人。救いというより人としての完成に近いものです
なすこと	身と心を修めること（修身）、礼を守ること、学ぶこと

ヒンドゥー教

問題	業（カルマ）に縛られて繰り返される生
目標	解脱（モークシャ）
なすこと	祭祀と務めを果たす行為の道、知恵の道、苦行、献身（バクティ）の道。献身の道では神の恵みも語られます

イスラム教

問題	神を忘れ、従わないこと
目標	審判を経て楽園に入ること
なすこと	信仰告白、一日五回の礼拝、喜捨、断食、巡礼（五行）。審判の日に行いを天秤で量ると教えます（クルアーン 7:8–9）

ユダヤ教

問題	神のみこころに従わないこと
目標	神と結んだ契約の中にとどまること
なすこと	律法を守り、背いたときには立ち返ること（テシュバ）

浄土仏教

問題	末法の世で、人の力では悟れないこと
目標	阿弥陀仏の極楽浄土に生まれること
なすこと	阿弥陀仏の名を称え、その本願を信じること（他力の信仰）

キリスト教

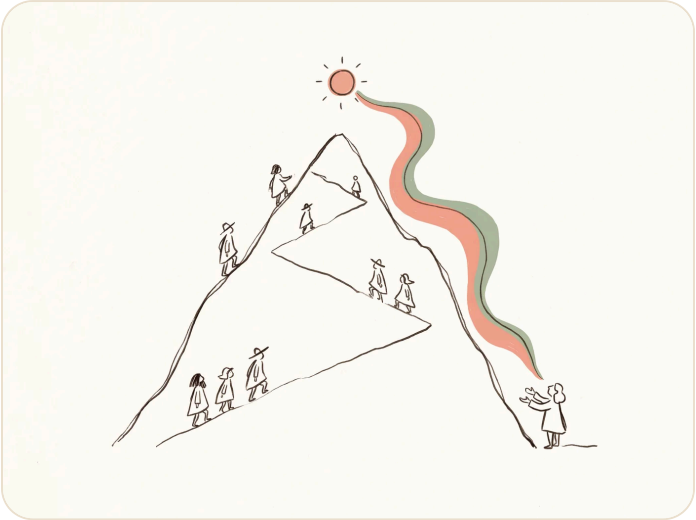
問題	罪。すべての人が神から離れ、さばきのもとにいる
目標	神とふたたびつながること、永遠のいのち
なすこと	**救いは100%神がなさいます。**人が付け加えるものはなく、神がすでになさったことを信仰によって受け取るだけです。その信仰も手柄ではなく、贈り物を受け取る空っぽの手です

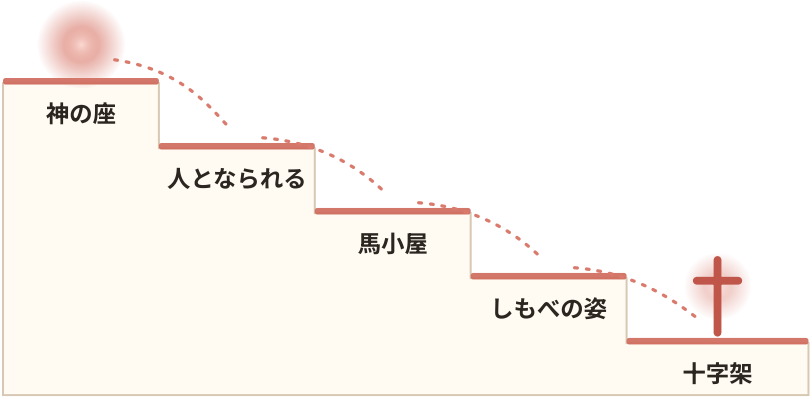
点の位置は、それぞれの宗教の代表的な教えをもとにしたおおよその位置です。より深く知るには、それぞれの宗教の経典と信者の説明に耳を傾けてください。

その三

ところが、逆さまの物語がひとつあります

人が上っていくのではなく、**神が降りて来られた**という話です。





天の座から、いちばん低いところまで

人が上っていくのではなく、**神が降りて来られました。**王宮ではなく馬小屋へ、主人ではなくしもべとして、栄光の座ではなく罪人がかけられる十字架にまで。

> この方は神の姿をお持ちでしたが、神と等しくあることにしがみつこうとはなさいませんでした。かえってご自分を空しくし、しもべの姿をとって人となられました。ご自分を低くして、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従われたのです。
>
> フィリピの信徒への手紙 2:6–8

ほかの宗教にも、神が地上に降りて来る物語はあります。ヒンドゥー教の化身（アヴァターラ）がそうです。しかしその神々は王子や英雄として来て、悪を打ち倒します。**いちばん低いところで、罪人の身代わりに死ぬために来られた神**は、キリスト教にしかありません。



「雇い人の一人にしてください…」と言い終える前に、父が先に走り寄りました

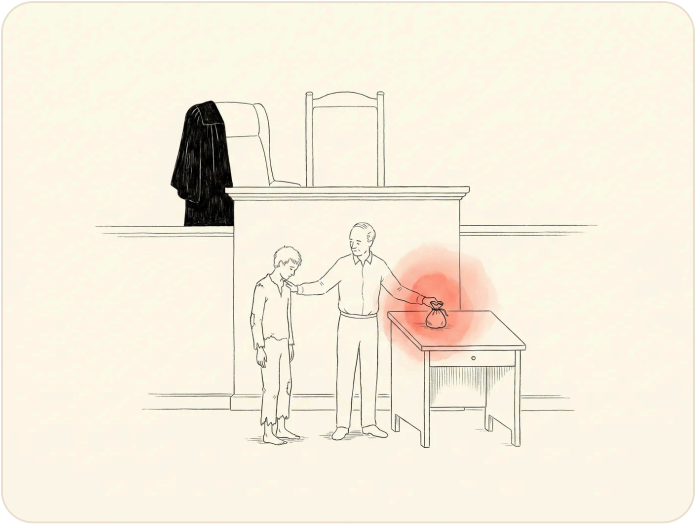
財産を使い果たして帰って来る息子は、道すがら言うことばを練習します。**「雇い人のひとりとして使ってください」**。働いて返そうという、上っていく道です。ところが父は、そのことばを聞く前に遠くから息子を見つけ、**自分から駆け寄って**抱きしめます。

> まだ遠く離れていたのに、父は息子を見つけてかわいそうに思い、走り寄って首を抱き、口づけした。
>
> ルカによる福音書 15:20

その四

ただ赦してくだされればいいのでは？

放蕩息子の父は、何の代価も求めずに息子を抱きしめました。それなら神も、ただ赦してくだされればよいのではないでしょうか。**なぜ十字架でなければならなかったのでしょう。**



裁判官は法服を脱いで降りて来て、息子の罰金を代わりに払いました。十字架とは、このことです

そして十字架で死なれたイエスは、三日目に**よみがえられました。**神話ではなく、時と場所のある歴史です。

聖書は、**すべての人が罪を犯した**（ローマ 3:23）、罪の報酬は死である（ローマ 6:23）と語ります。罪はいくつかの失敗ではなく、神から離れた心です。聖なる神は、それを見て見ぬふりはなさいません。

だれかがわたしの家族を傷つけたのに、裁判官が「かまわない」と言って放免したら、それを愛と呼ぶことはできないでしょう。**ただ覆い隠せば正義が**

崩れ、そのまま罰すれば愛の居場所がありません。

1

ある裁判官の前に被告が立ちました。それは裁判官自身の息子でした。

2

裁判官は法のとおりに罰金を言い渡します。息子には到底払えない大金でした。

3

判決を終えた裁判官は法服を脱いで降りて来ると、自分のお金でその罰金を代わりに払います。

法は守られ、息子は自由になりました。**正義と愛が、ともに成し遂げられたのです。**キリスト教は、十字架とはまさにこういうことだと語ります。

> わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストはわたしたちのために死んでくださいました。こうして神は、わたしたちへのご自分の愛を示されたのです。
>
> ローマの信徒への手紙 5:8

赦された過ちの代価はどこへ行くのか

ヒンドゥー教・仏教	業は**自分で償います**。そのために幾度もの生を経ます。
浄土仏教	阿弥陀仏の本願によって極楽に生まれます。残った業は、そこで修行しながら解いていきます。
イスラム教	アッラーが望まれれば**赦し**てくださいます。その代価をだれかが代わりに払うことはありません。
キリスト教	神が**ご自分で代価を払われます**。裁判官が法服を脱いで降りて来るように、神が人となって来られました。

物語ではなく、起きた出来事

キリスト教はこれを神話やたとえとして語りません。時と場所のある出来事なので歴史として確かめることができ、キリスト教はその出来事にすべてを懸けています。

そして、その方は三日目によみがえられました。墓は空で、よみがえったイエスを五百人以上の人が同時に見ました。パウロはこれを出来事から二十年ほどのちに書き、「その大部分は今も生きている」と書き添えました（一コリント 15:6）。尋ねて確かめてみよ、ということです。恐れて隠れていた弟子たちは、この知らせを伝えて命を差し出しました。人から聞いたことを信じて

死ぬ人はいても、**自分の目で見たと言うことがうそだと知りながら、そのために死ぬ人はいません。**

紀元30年ごろ・エルサレムの城壁の外

ローマ総督ポンティオ・ピラトのとき

> キリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今も罪の中にいることになります。
>
> コリントの信徒への手紙一 15:17

その五

キリスト教は排他的なのでしょうか？

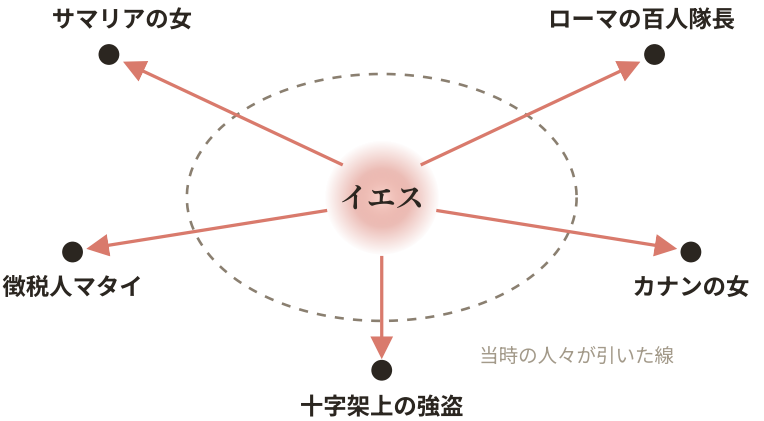
神ご自身が代価を払われた道なら、道はひとつです。



ただひとつの道、けれどもいちばん広い門

まず率直に認めます。排他的だと感じられてきたのには、**クリスチャンの冷たいことばや振る舞い**も一因でした。それはイエスの姿ではありませんでした。申し訳なく思います。

イエスは「わたしは道であり、真理であり、いのちである」（ヨハネ 14:6）と言われました。道がひとつだという言葉は狭く聞こえます。けれども**入るための条件**を見ると、違って見えてきます。善行や苦行の門では、そのための力と時間のある人が先を行きます。恵みの門は、何の資格も問いません。罪を犯した人も、遅れて来た人も、死を目前にした人も、同じ門から入ります。十字架のかたわらの強盗もそうでした（ルカ 23:43）。



線を越えて、自分から訪ねて行かれた方

異なる民族、異なる信仰の人、占領軍の将校、民族を売った者と後ろ指をさされた徴税人、死刑囚。イエスは当時の人々が引いた線を越えて、**自分から訪ねて行かれました。**

> ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあってひとつなのです。
>
> ガラテヤの信徒への手紙 3:28



出口がひとつしかないなら、それを知らせるのが愛です

非常口を知っている人が「こちらです！」と叫んだら、わたしたちはその人を傲慢だとは言いません。クリスチャンがイエスを伝える心も、**勝とうとする心ではなく、ともに生きたいと願う心**でなければなりません。



扉を壊さず、たたかれる方

イエスは扉を壊して入って来られません。剣や恐れによってではなく、**みことばによって呼ばれます。**そして、閉ざされた心を開かれるのも主です。パウロの話を聞いていたルデヤについて、聖書は「主は彼女の心を開かれた」と語ります（使徒 16:14）。ですからクリスチャンは、無理に信じさせようとはせず、ほかの信仰をもつ隣人に**穏やかに、敬意をもって**接するべきです（一ペトロ 3:15–16）。

> 見なさい、わたしは戸口の外に立ってたたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入り、ともに食事をする。
>
> ヨハネの黙示録 3:20

それでも残る問い

神が愛なら、なぜ世界に苦しみがあるのか？

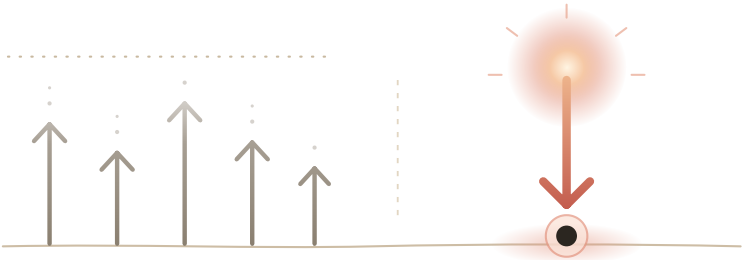
この問いのすべての答えを知っているとは言えません。けれども、キリスト教の神は苦しみを遠くから見下ろしているだけの方ではありません。**ご自身がその中に入って来られ**、裏切られ、打たれ、十字架で死なれました。そしてよみがえり、苦しみと死が最後のことばではないことを示されました。聖書は、神がすべての涙をぬぐい、もはや死も悲しみもない日が来ると約束しています（黙示録 21:4）。

福音を聞いたことのない人はどうなるのか？

その人たちのことは、**もっとも公正な裁き主である神**にゆだねます（創世記 18:25）。聖書は、神が造られた世界と人の良心を通して、すべての人に語ってこられたと言います（ローマ 1:20、2:15）。そして一つのことは確かです。これを読んでいるあなたは、**もう聞きました。**

まとめ

ひとことで言えば



ほかの道は言います

「こうすれば神に届く」

キリスト教は言います

「神はすでに
あなたのもとに来られた」

はじめの三つの問いに

わたしは大丈夫な人間だろうか？

大丈夫ではありません。それでも**命を差し出されるほど愛されている人**です。

わたしの過ちはどうすれば洗われるのか？

自分で償わなくてよいのです。**十字架で代わりに支払われました。**

死の向こうには何があるのか？

死に打ち勝ってよみがえられた方が、**その向こうで待っておられます。**

神はそれほどまでに世を愛して、ひとり子をお与えになりました。御子を信じる人がだれひとり滅びることなく、永遠のいのちを得るためです。

ヨハネによる福音書 3:16

信じなさいと急き立てはしません。その方が歩まれた道を、ゆっくりたどって歩いてみてください。その道で、**先にあなたを探しに来られた方**に出会うでしょう。

信じてはじめてわかること

「まずわかってから信じよう」という言葉は、理にかなっているように聞こえます。けれども実際の生活では、逆のことがたくさんあります。**信じて一歩踏み出してはじめてわかること**です。

知って → 信じる	⇄	**信じて → 知る**
頭だけで知る道		歩いてみて知る道

水泳

水が体を浮かせてくれると信じて力を抜いてこそ、浮くことがわかります。もがけば沈みます。

自転車

走っていれば倒れないと信じてペダルをこいでこそわかります。止まれば倒れます。

飛行機

仕組みをすべて知ってから乗る人はまれです。乗ってみてこそ空を知ります。

結婚

すべてを知ってから結婚する人はいません。信じてともに暮らしながら知っていきます。

薬

医師を信じて飲んでこそ、治ることがわかります。説明書を読むだけでは治りません。

食べ物

味は説明ではわかりません。食べてみてこそわかります。

科学

科学者も、仮説が正しいだろうと信じて実験を始めます。結果はそのあとでわかります。

赤ちゃん

赤ちゃんは母親をすべて知ってから抱かれるのではありません。抱かれて母親を知ります。

泳ぎを習う人は、どこにでもやみくもに飛び込むわけではありません。そばにコーチがいて、ほかの人が浮くのを見たから、身をゆだねるのです。**十分な理由のある信頼**です。

キリスト教の信仰も同じです。時と場所のある歴史上の出来事、いのちを懸けて証言した人々、ここまで比べてきた物語が、その理由です。その上で一

歩踏み出せば、その先は頭ではなく生き方を通してわかっていきます。そして知るほどに、信仰はさらに深まります。

> 主がどれほど恵み深い方か、味わって確かめなさい。
>
> 詩編 34:8

> だれでも神のみこころを行おうとするなら、この教えが神から出たものか、わたしが自分の考えで話しているのか、わかるはずだ。
>
> ヨハネによる福音書 7:17

ですから、すべてわかってからではなく、**今日の一歩**で十分です。

その一歩とは？

聖書はその一歩をこう語ります。**「悔い改めて福音を信じなさい」**（マルコ 1:15）。

1

立ち返る 神から離れ、自分の思いのままに生きてきた罪を認め、その道から神へと向きを変えます。

2

信じる イエスがわたしの罪のために十字架で死に、よみがえられたことを信じ、自分をイエスにゆだねます。

3

告白する イエスをわたしの救い主、わたしの主と呼んで祈ります。

これも、わたしが積む功績ではありません。**立ち返る心も、信じる心も、神が与えてくださいます。**いま心が動いているなら、それこそ神が呼んでおられる声です。

> 口でイエスを主と告白し、心で神がイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われます。
>
> ローマ 10:9

その先の物語

降りて来られた神は
人々をひとつの家族に集められました

イエスを信じることは、ひとりで歩く道ではありません。その道には教会があります。

教会はどのように始まったのでしょうか？



五旬祭（ペンテコステ）、聖霊が来られた日に教会が生まれました

召し
ガリラヤで十二人の弟子を呼び、そばに置かれました（マルコ 3:14）

約束
「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」（マタイ 16:18）

代価
十字架で教会のためにご自身をささげ、よみがえられました（エフェソ 5:25）

待つこと

天に昇られるとき「聖霊を待ちなさい」と言われました（使徒 1:4–8）

誕生

五旬祭に聖霊が来られ、その日三千人が洗礼を受けました。最初の教会です（使徒 2:1–41）

広がり

エルサレムからユダヤとサマリアへ、そして地の果てまで（使徒 1:8）。その教会が今日、わたしたちの町にまで来ています

新約聖書が使う「教会」（エクレシア）という言葉は、**「呼び出されて集まった人々」**という意味です。ですから教会は、まず建物ではなく**人**です。礼拝堂は、その人々が集まる家にすぎません。

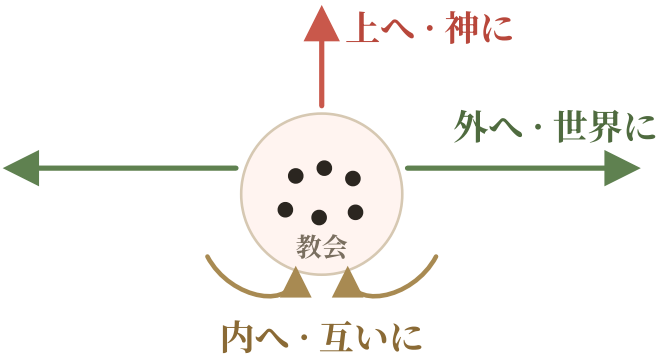
教会は、人が善意で作った集まりではありません。イエスが「**わたしの**教会」と呼んでご自身で建て、聖霊が来て息を吹き込まれました。

> 二人か三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる。
>
> マタイによる福音書 18:20

教会は何をするのでしょうか？



教会は建物ではなく人々、イエスのからだです



礼拝 上へ

ともに神をあがめ、洗礼と聖餐で恵みを受けます

祈り 上へ

互いのため、世界のために神に願い求めます

みことば 内へ

聖書をともに学び、イエスに似た者となっていきます

交わり 内へ

家族のように食事をし、重荷を分かち合います

奉仕 外へ

貧しい隣人、病む隣人を支えます

伝道 外へ

受けた良い知らせを隣人に伝えます

> 彼らは使徒たちの教えを受け、互いに交わり、ともにパンを裂き、祈ることに励んでいた。……信じた人々は皆ともに過ごし、すべてのものを分け合っていた。
>
> 使徒言行録 2:42–44

教会は**イエスのからだ**です（一コリント 12:27）。頭であるイエスのみこころに従い、その手足となって、この地でイエスの働きを続けていきます。洗礼はキリストのものとされ、この家族に加えられたしるしであり、聖餐は十字架を覚えつつ、信仰によってキリストの恵みを受ける食卓です。

ひとりでしっかり信じていればいいのでは？



火から離れた炭は、ひとりで冷えていきます

その言葉に、イエスは心を痛められます

教会はイエスのからだです。教会を迫害していたサウロに、イエスは「なぜ**教会**を迫害するのか」ではなく、「サウロ、サウロ、なぜ**わたし**を迫害するのか」と言われました（使徒 9:4）。教会が痛めば、イエスが痛まれるのです。

イエスは教会のためにいのちをささげられました（エフェソ 5:25）。いのちを懸けて愛された家族を前に「わたしには必要ありません」と言うなら、そのお心はどれほど痛むでしょうか。

十字架の前の晩、イエスの祈りはこうでした。「父よ、彼らが皆ひとつになりますように」（ヨハネ 17:21）。

からだから離れた指は、どれほど健康でも長くは生きられません。信仰も同じです。ひとりきりの信仰は冷めやすく、道に迷いやすいものです。神はわたしたちが**互いを通して**成長するように造られました。

> 互いに気を配り、愛と良い行いへと励まし合いましょう。ある人たちのように集まるのをやめず、互いに力づけ合いましょう。
>
> ヘブライ人への手紙 10:24–25

もしそんなことがあったのなら、本当に申し訳なく思います。教会も人の集まりなので、過ちを犯し、ときには深い傷を負わせてしまいます。

けれども教会は、**完璧な人の展示場ではなく、癒やされていく人の病院**です。イエスは「健康な人に医者はいらない。いるのは病人である」（マルコ 2:17）と言われました。病んだ者どうしが集まって同じ医者に癒やしていただく場所、それが教会です。

傷つけた人のために、イエスからまで離れないでください。健やかな教会をもう一度探せばよいのです。その方法を下に書きました。

> 目が手に向かって「あなたはいらない」とは言えず、頭が足に向かって「あなたはいらない」とも言えません。
>
> コリントの信徒への手紙一 12:21

教会 その四

本物はどう見分けるのでしょうか？



本物の真珠は、傷から生まれた宝石です

教会のそばには、教会をまねたものもあります。ここで言う「偽物」とは、ほかの宗教のことではなく、**キリスト教の名を借りて、イエスを違ったふうに伝える教え**のことです。貴いものには、まねるものが現れるものです。道ばたの石をまねる人はいませんが、偽札は本物のお金だけをまねます。だから本物をよく知れば、偽物は見分けられます。

○ 本物	× 偽物
だれが救うのか	
○ **神が100%**なさる。恵みにより、無償で	× **人が資格を積まなければ**ならない。行い、規則、献身
イエスはだれか	
○ **人となられた神**、ただひとりの救い主	× **イエスは神ではない**（神性の否定）。あるいは**別の人物を立てる。**再び来た主、助け主、勝利者
何を付け加えるか	
○ **付け加えるものはない。**信仰によって受け取るだけ	× **何かを付け加える。**特定の日、数字、自分たちの団体
何に基づくか	
○ **聖書全体**と歴史の中の出来事	× **ひとりだけが受けた**新しい啓示、秘密の解き明かし

どんな実を結ぶか

○ **自由と愛。**家庭と隣人を生かす	× **恐れと秘密。**家族との縁を切らせる

キリスト教の名を借りた教えは、ほとんど決まって**「恵みだけでは足りない」**と言って何かを付け加え、ふたたび「上っていく道」へと引き戻します。

本物の真珠は、歯でこするとざらりとします。本物の福音も、はじめはざらりとします。「あなたは自分で自分を救うことはできない」という言葉から始まるからです。けれどもその中には、**代わりに傷を負ってくださった愛**があります。

教会 その五

どんな教会に行けばよいのでしょうか？



健やかな教会は近くにあり、その扉は開かれています

○ 健やかな教会	✕ 注意すべきところ
何を伝えるか	
○ **十字架と恵み。**イエス・キリストが中心	✕ **行い・ご利益・秘密の解き明かし**が中心
だれをあがめるか	
○ **イエス**をあがめる	✕ **牧師や教祖**をあがめ、その人を「助け主」と呼ぶ

素性を明かすか

○	×
教会の名前と教団を明かし、使徒信条をともに告白する	**名前を隠して**アンケート・心理テスト・文化イベントで近づく

人への接し方

○	×
自由に行き来でき、家族を大切にする	家族に**隠すよう**言い、離れようとすると恐れを抱かせる

お金

○	×
会計が**透明**で、献金は喜んでささげる	献金を**強要**し、会計を隠す

はじめて行くには

1. **家の近くの教会を二、三か所**探してみてください。名前と教団を確かめます。

2. **日曜日（主日）の礼拝に、そのまま行ってみてください。**後ろの席に座ってもかまいません。だれでもはじめはぎこちないものです。

3. **初めての方のための案内**を受けてみてください。気になることは何でも尋ねてかまいません。

4. 何週か通いながら、**上の O・X**で確かめてみてください。

5. **小さな集まり（小グループ）**に加わって、ともに歩んでください。そこで教会が家族になります。

道で「アンケートにご協力ください」「心理テストをしてみませんか」「良い聖書の勉強会があります」と近づいてきて、どの教会なのかをはっきり明かさないなら、気をつけてください。はじめから教会の名前と教団を明かさないところは、避けるのが賢明です。

迷ったときは、近くの教会の牧師や、所属教団の窓口に尋ねてみてください。健やかな教会は、こうした質問を喜んで受けとめます。

分かち合いのための問い

1. わたしはいま、「登っていく道」と「降りてこられた神」のどちらの前に立っているでしょうか。

2. 「宗教はみな同じ」という言葉を聞くと、どんなことを思いますか。

3. 放蕩息子の父のように、先に駆け寄ってくれた人がいましたか。

4. 裁判官の話で、正義と愛が共に成し遂げられるということは、どう聞こえますか。

5. 信じて一歩踏み出してから、はじめて分かったことがありますか。

6. 今週行ってみることのできる教会はどこですか。だれと一緒に行きたいですか。

メモ

メモ

メモ

なぜキリスト教なのか

上っていく宗教、降りて来られた神

発行日　2026年11月

発行者　김성수
大田セロナム教会 執事

制作　SSSOFT

配布　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
配布する教会や団体は、ここに名前を書くか印を押してください

© SSSOFT

絵はAIで作り人の手で整えました・聖書の言葉は新しく訳した文です

あなたを待っている家族があります

イエスはあなたをひとりで歩かせません。この日曜日、近くの教会の扉をたたいてみてください。

その道 シリーズ



イエス
四福音書でたどるイエスの足跡



モーセとヨシュア
エジプトから荒野を通ってカナンへ



ダビデ
ベツレヘムの羊飼いからエルサレムの王へ



列王記
預言者をたどって歩く二つの王国



パウロ
ダマスコ途上からローマまで、福音は地の果てまで



詩篇
荒野と王宮で歌われた歌と祈りを、その場所で（韓国語）



箴言
ソロモンの知恵を、今日の道で



GoodNews（福音）
神の愛と救いを伝える四つの霊的法則



なぜキリスト教なのか
上っていく宗教、降りてこられた神 — そして教会

thewaymap.org

その道 — 地図の上を歩く聖書の旅